



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2022.9-10

No.454

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



ツミが段ボール箱で子育て成功！

今年の7月中旬、越谷市の公園で、ツミのヒナが段ボール箱で全羽無事に巣立ちました。そこで編集部では、その巣立ちまでを見守った地域の方々（代表して非会員の田中 修さんと佐藤幸司会員）にインタビューしてきました。

◇ 巣の落下から段ボール箱撤去まで

以下は、佐藤会員の記録にインタビューでの内容を補完しました。会話は、インタビューの時に印象深かった話です。

6月24日

今日は体調不調のため毎日の観察を休んだ。その夜、会員からの電話で、本日夕方、ツミの巣（地上高約8m、営巣木クスノキ）が強風のために落下、その場に居合わせた武井綾子（非会員）さんが地域の人に呼びかけ、越谷市役所職員の協力（※1）も得て、ヒナ5羽を段ボール箱（30×45×25 cm）に入れ、居合わせた人達が協力して営巣木に設置（地上高約3m）したことを知った。作業が終了したのは20時過ぎだったようだ。

6月25日

早朝5時に行く。営巣木との距離は充分にとって観察しているが、親鳥は餌を持って来ても箱に降りない。ヒナの声は聞こえる。午後になっても同様だ。飢え死にが心配だ。箱の開放部に渡している2本の紐が親鳥の巣に入るのを邪魔しているのか。そこで、昨日携わった人たちと相談し、その紐を切断した（下写真 編集部）。

「切ろうとした時だよ、真っ白いヒナ達5羽が一斉に首を伸ばして口を開け、ピーピーと餌をねだるんだよ。放っておけませんよ」。

営巣木から離れて皆さんと注視。親が餌を

持って箱に飛び込む。

「（見守りを通して）この瞬間が一番うれしかったねえ、餌を持ってポンッと親が入ったんだよ、思わずみんなでガッツポーズ！」。

それから何度も給餌。辺りは薄暗くなっていた。

6月26日

6時、親鳥が給餌していた。午前中だけで7回の給餌。ヒナ5羽とも無事。親鳥は、葉のついたラクウショウの枝を箱の中に何度も運びこんでいた。

2021年の事例の写真が届く（※2）。

6月27日

日頃より午前3時半ごろから観察している黒田信彦（非会員）さんによると、その日の最初の給餌は午前4時頃とのこと。

給餌は、3羽だけに給餌したときは、次の時は残りの2羽に給餌するなどの調整をしているようだ。

6月28日

今朝も午前4時に1回目の給餌。1羽ごとに与えたとのこと。9時の給餌では、最も小さいヒナだけに給餌していた。15時には3羽に給餌。

6月29, 30日

所用で休む。しかし、この時期になると、自然発生的にツミの見守り隊が生まれた。

「なにかと市役所も配慮してくれて、大き



な励みになったなあ（前ページ右下写真）。

また、ラジオ体操の行き帰りに応援してくれる人、成長が愉しめで1日3回見に来る人、犬の散歩の際は遠回りする人など、ツミを中心に地域の輪ができてきた（※3）。

7月1日



落下時と比べ、ヒナもだいぶ大きくなった。黒い羽根の部分も増えた。ヒナ同士で餌を奪い合うときは箱から落ちそうでハラハラする。落下した時の捕獲用に網を用意する（幹に立てかけている。上写真参照 編集部）。

7月2日

ヒナの枝伝いが始まった。12時30分に給餌した餌は、今までより大きい餌を与えていた。時間をかけてヒナ5羽に給餌する。ラクウショウの葉や枝運びはまだ続いている。

7月3日

13時頃、枝に出ているヒナに、30分をおいて2回ほど餌を運ぶ。しかし、まだ箱からでない最も小さいヒナには給餌しない。1時間ほどして、小さいヒナは思い切った様子でジャンプを2回繰り返して箱を出、枝伝いに兄弟のいるところまでたどりつく。その時から、一緒に給餌を受けるようになった。

「末っ子が箱から出たときも本当に嬉しかったなあ」

その後、ヒナたちは箱に戻らず、それぞれ別の枝で夜を過ごしているようだ。

7月4日

朝の内はヒナ同士近いところに集まっているが、時間と共にその距離が広がっている。

親からの給餌が、獲物を一カ所へ置いていくようになった。16時30分ごろの3回目の給餌の際に1羽が枝から落下。網で捕獲して箱に入れようとするが入りたがらず、枝に置

くようにした。1時間後に別のヒナが落下。やはり箱に入らないので枝に置く。

ヒナの中には、30mほど水平に飛び、別の木に移動するものもいた。

「ヒナたちが民家に飛び込み、出てこれないことが何度かあったなあ。その都度、事情を説明してその家に入れてもらっただけだけど、いつでも快く協力してくれたよ。このように、自分たちの活動を理解してくれる人が増えることは実に嬉しいものだよお」。

7月5日

今朝も午前4時に最初の給餌。6時50分頃、2回目の給餌。獲物を置いていくと、そこにヒナが集まる。

ツミの親鳥♀が、オナガの巣からヒナをさらう。オナガ数羽が一斉にツミを襲う。

7月6日

6時頃、今朝はヒナ5羽に親鳥が獲物をちぎって与えていた。8時30分ごろ、木から木へ20m、さらに30mと飛び移るヒナがいた。

近頃は、親のみを見かけない。

7月7日

朝の5時45分までに、親鳥♀が獲物を4回運ぶ。獲物は枝に置く。まず一番大きなヒナが採食。他のヒナは終わるのを待っているが、時には「替われよ」と言わんばかりに体当たりをする時があった。

餌を枝に置いたときは落下することが多い。その時はヒナは地上で採食していた。まだ獲物を持って飛ぶことはできないようだ。食べる順番はやはり大きいヒナからだ。

ヒナ達が箱に入ることはなくなったので、皆さんと相談し、箱を撤去した（※4）。

◇ インタビュー後の感想

『ヒナを拾わないで！！』のキャンペーンがある。編集部も賛同している。機会あるごとに呼びかけ、ポスターも貼ってきた。

しかし、今回もそして2021年の場合も巣ごと落下し、まだ真っ白い羽毛のヒナが地面に投げだされたような状態だったようだ。そんなヒナ達を何とかしたいと思うのは当然だ。

今回の特集は、そのような状況に遭遇した際の参考になると考える。2021年と2022年

の事例から分かったことを並べると以下のようになる。

- ① まず関係機関に相談することが大切。多くの人から理解と協力を得られるからだ。鳥獣保護管理員も対応してくれる。2021年は埼玉県越谷環境管理事務所、2022年は越谷市環境政策課と初めから連絡を取り合っている。段ボール箱の設置も相談を受けた機関が行った（公共施設内だからだろう）。
- ② 2021年は、ヒナを一晩、地域の人が預かり、割りばしでささみを与えたと聞いている。よく食べたようだ。
- ③ 段ボール箱を設置の際は開放型（open nest）にする。底に水抜き用の穴も必要。
- ④ 今回は地上高3mのところでも給餌を続けた。これは見守り隊が不用意に近づく人を防いだことが大きいと思われる。
- ⑤ 今回は、地域の人たち、行政機関、会員がうまく連携してツミの子育てを助けた好例である。やはり、ここでも人と人とのつながりが重要だ。

< 補 >

※1：その際、山部直喜会員は2021年の越谷市内の公共施設内で記録された同様な事例（未発表）を市役所に紹介した。

※2：2021年6月27日、山部直喜撮影（写真）。地域の人の話では6月21日頃に巣立ちしたとのことである。固定用のロープは両端にあり、開放型の巣の形になっている。地上高約4.5m。営巣木クスノキ。



※3：マナー違反のカメラマンには、見守り隊の輪で穏やかに対応できたと聞いている。地域のつながりは大きな抑止力になる。

※4：前もって市役所と連絡を取りあい、安全面の配慮も受けていた。

求む！ 野鳥観察データ

調査部 森本國夫

● 調査部で集めたいデータと集める方法

調査部では、県内の野鳥生息状況の経年変化などを把握したいと考えていて、観察データのデータベース化を進めています。

従来、そのような目的に使える観察した全鳥種が報告されている継続的なデータは、探鳥会のものだけでした。ただ、探鳥会の開催場所は限定されているのと、通年開催でないものもあるという制約がありました。

そこで、より広い範囲の通年のデータを継続して提供していただくことを目指して、2017年頃から野鳥リポーターの募集を始めました。

● 野鳥リポーターのこれまで

野鳥データベースでは、観察場所を表すのに3次メッシュコードというものを使っていて、ご自分で観察地のメッシュコードを調べられることや、所定のExcel様式ファイルに入力してメールで報告いただくことなどを条件としていたため、お願いできる方が限定されていました。

● リポートを容易に

手軽な報告の手段を増やしました。

- ① フィールドノートをスマホのカメラで撮影し、メールで報告（場所が明確であること）
- ② 「FieldNote」アプリで報告

当会のウェブサイトを設定したアプリに、パソコンまたはスマホを接続して報告します。

3次メッシュコードをご自分で調べる必要はなく、アプリの機能で表示した地図で観察場所を示すだけで済みます。

鳥種の入力は表示されるリストをチェックするだけで、面倒な手入力は必要ありません。

「FieldNote」アプリを使って報告する方法については、次号で解説します。

● 『しらこぼと』野鳥情報との関係

野鳥リポートのデータの中で公表しておきたいものを『しらこぼと』用の野鳥情報として報告することもなんら差支えありません。むしろ、そうされることをお勧めします。

野鳥記録委員会の最新情報

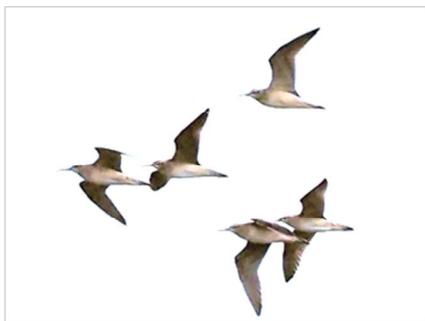
日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●コシャクシギ

英名 Little Curlew

学名 *Numenius minutus*

分類 チドリ目シギ科ダイシャクシギ属



藤原寛治会員より、2022年4月16日午後5時過ぎに観察・撮影したコシャクシギと思われるシギ類の大群(43ないし45羽)の報告が寄せられました。場所はさいたま市見沼区内の田園地帯とのことでした。添付された2枚の写真(上掲ほか1枚。上掲は一部を拡大したもの)は飛び回る光景のみで、地上に降りている姿も含めて至近距離からの写真はありませんでした。

そのため当委員会では、このシギ類の群れがコシャクシギにほぼ間違いないと考えたものの、群れの大きさに違和感を覚え、慎重を期して保留にしておりました。

そんな折、藤原会員がご自身で山階鳥類研究所に問い合わせたところ、同研究所専門員の平岡考氏から「コシャクシギの群れに間違いない」とのご教示があった旨、再び連絡をいただきました。平岡氏のコメントにも、「過去にこのような大きな群れが、日本国内で記録されたことがあるかどうかわからない」とありました。

これを受けて当委員会は、これだけまとまった数のコシャクシギの群れの飛来は極めて珍しい事例と判断し、改めて発表することにしました。

なお本種は、「日米渡り鳥条約」「日露渡り鳥条約」「日豪渡り鳥協定」の指定種です。

コシャクシギの群れ

藤原寛治(さいたま市)

4月16日午後5時頃、さいたま市見沼区膝子で農道を飛び交うツバメ、さえずり飛翔するヒバリなどを見ながら歩いていると、南から北へ飛ぶ50羽ほどの鳥の群れ。ドバトかと思いましたが、飛び回る群れを双眼鏡でよく見ると嘴が長い、ドバトじゃない! シギの群れには違いないが、私はムナグロ以外にシギチでこれだけの数の群れは見たことがありません。カウントすると45羽。取り敢えず写真に撮ることにする(写っていたのは43羽)。

しばらく上空を飛び回った群れは岩槻区横根との境の辺りの田圃に降りる。落ちつかないのか、飛び上がり、5時9分頃に群れは二手に分かれる。片方(22羽)は西の方に飛ぶ(残念ながら、もう片方の群れは見失う)。

西の方に飛んだ群れは、一度降りましたが、再び飛び上がり、上空を行ったり来たりしながら飛び回り、午後5時22分、西の奥の方の田圃に降りる。結局、地上に降りている姿を見ることはできませんでした。

家に帰り、撮影した画像を見ても、飛んでいるシギの種類までは特定できませんでした。翌週、秋ヶ瀬にコシャクシギを見に行き、昨日は7羽いたという話を聞きました。もしやと思い、野鳥記録委員会のメンバーに画像を送りました。念のため、山階鳥類研究所にも画像を送り、識別をお願いしました。

後日、山階鳥類研究所専門員の平岡考氏から返信があり、「画像はコシャクシギで間違いないと思います。写真を拝見しますと、全体的にいわゆるシャクシギの仲間の形態と色彩であり、嘴が短めで湾曲も弱いこと、類似のチュウシャクシギの場合、腰から背にかけて白いくさび状の切れ込みが入るはずですがそれがいないことから、コシャクシギで問題がないと思います。これだけの数の記録というのは、ないように思います。ぜひ会報の『しらこぼと』にもレポートを掲載した方がよいと思います」とのコメントをいただきました。

コシャクシギは、これまで見ることはできなかったのですが、偶然とはいえ、これだけの群れに出会えたのは幸運でした。



野鳥情報

蓮田市黒浜 国立病院機構東埼玉病院 ◇12月24日、敷地内でシロハラ、カケス、ルリビタキ♀など。1月26日、敷地内でヤマガラ1。ウグイス1が8m程の高い枝を渡り歩く。久々のトラツグミ1。2月2日、西縁でシロハラ、ルリビタキ、トラツグミ、コジュケイなど（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 黒浜沼周辺 ◇12月18日、ヨシ原にオオジュリンの姿が目立つ。上空にハヤブサ1帆翔。そこにハイタカ1が飛んできてニアミス。アリスイの声、クイナの声（藤原寛治）。◇12月24日、ハイタカ1、低空飛行。クイナの声、数ヶ所から。コガモ、カイツブリ、バン、オオバン、タシギ。ジョウビタキ♀1、なぜか目の周りがただれていた（鈴木紀雄）。

久喜市菖蒲町小林 ◇12月24日、ノスリが「ピーウピーウ」と鳴いている。チョウゲンボウ♀1が電線に。ニュウナイスズメ約100。調整池でマガモ、コガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、クイナ（声）、スズメ、アオジ、ホオジロ、オオジュリン（鈴木紀雄）。

さいたま市の鴨川 ◇12月25日、川沿いの田圃でタヒバリ16+。1月2日、植水小学校付近の岸辺でクイナ1、オカヨシガモ3。1月3日、下流の学校橋～島根橋、中州でイカルチドリ2、カワセミ2など。1月16日、島根橋～上流の学校橋でヒドリガモ11、ヨシガモ♂1など。1月24日、根切橋～藤橋の吹きさらしの岸辺でオオタカ成鳥1がカモ？を食べていた。白い小さな羽が大量に散らばり、腸だと思われるピンク色の臓物が脇に取り除けられていた。近くの水面上にオオバン28の群れ。ハクセキレイ1がオオタカの目の前を歩いて通過（大塚純子）。

越谷市越谷レイクタウン ◇12月25日、カンムリカイツブリ7、ハジロカイツブリ1、ミサゴ1。1月7日、カンムリカイツブリ7、オオタカ幼鳥1（53396655）。ノスリ1（53396646）（鈴木 功）。

草加市柿木町 ◇12月25日、オオタカ幼鳥1、ハヤブサ成鳥1、キセキレイ1。1月7日、そうか公園でアオバト♀1（下写真）、越冬期間では初めての観察。オオタカ幼鳥1（53396636）。ノスリ1（53396645）。1月9日、ミサゴ1、オオタカ成鳥（53396636）。イソヒヨドリ♀1（53396645）。2月2日、ホンドキツネ1頭（53396645）。自転車の前に突然出てきてビックリした（鈴木 功）。



上尾市地頭方～平方領領家 ◇12月27日、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、ジョウビタキ、アカハラ、コサギ、アオサギ、オナガ、ガビチョウ、コゲラ、ツグミ、シメ、モズ、キジバト、キジ、ベニマシコ、カワラヒワ、ウグイス、カルガモ。ナツバキの側でエナガ13。やがて「タカが来た、タカが来た」の声に変化。メジロ、シジュウカラも騒ぎ出す。上空にチョウゲンボウ2、トビ。回りながら近づいてきた。1月4日、スズメ52、メジロ23、ムクドリ64、シジュウカラ18、ハクセキレイ8、セグロセキレイ4、キセキレイ2、カワセミ、カルガモ6、ハシブトガラス21、ハシボソガラス24、ミヤマガラス12、キジバト9、カワラヒワ8、モズ7、キジ3、ホオジロ4、ジョウビタキ♀4♀3、オナガ32、ツグミ9、シメ4、ガビチョウ4（村越百合子）。

さいたま市中央区 与野公園 ◇12月28日、林の下でキジバト25+が集団で採餌。ケヤキの梢でシジュウカラ10+、コゲラ2、メジロなど。弁天池でカルガモ25。1月20日、アトリ26+。～公園に 群れるアトリら ほんの赤き花をばケヤキの 梢に咲かせる～（大塚純子）。

白岡市 白岡市総合運動公園 ◇12月29日、カワラヒワ50±が芝生で採餌しては、近くの桜の枝に戻って休息を繰り返していた。他にヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、コサギ、オオバン、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(長嶋宏之)。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇12月29日、屋敷林のカシの樹からカケスが鳴きながら出てきた。今季ここでの初認。他にカルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、シメなど。1月16日、ドバト10+が東屋の屋根で休息。餌をやる人がいなくなって暫くいなくなっていたのだが、また飛来した。1月24日、ハシブトガラスが数年営巣するカシの樹に、よそ者のカラス1羽が接近。飛び立った2羽のカラスがよそ者ガラスを執拗に追いかけて、離れた屋敷林に追い込んだ。造巣が始まったのだろうか。1月29日、20m位離れた畑の白菜の株一つ一つに、ヒヨドリが6~7羽止まって採餌していた。そこにハイタカが急襲。ヒヨドリは四方八方に飛散。狩りは失敗。ハイタカは近くの柿の木の梢に飛び上がり、身を反転させて屋敷林に消えた。他にカルガモ、キジバト、アオサギ、コサギ、コゲラ、モズ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイなど。2月1日、カシの枝間からコゲラのドラミングに似た音が。探すとハシボソガラスが嘴を小刻みに開閉して、音を発していた。2月3日、四方を網で囲った葡萄畑にタカ落としに遭ったドバトの新しい羽根。周辺で、普段ドバトは見当たらないのだが。2月6日、シジュウカラの囀りを聞いた(今季ここで初)(長嶋宏之)。

さいたま市西区 ふるさと景観緑地周辺(53397436) ◇12月30日、カルガモ、キジバト、オオバン、コゲラ、亜種リュウキュウサン

シヨウクイ3+、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ルリビタキ、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。

本庄市の利根川 ◇1月2日、坂東大橋下流域で突然、前方のヨシ原から何かが飛び出した。猛禽?ノスリではない、よく観察すると何とハイイロチュウヒ♀タイプのように。確かに最近では、ヨシ原が広がった感じがある。多分、この辺りでは初確認だと思う(大畑祐二)。

久喜市 久喜菖蒲公園 ◇1月2日、眼下には姿が綺麗なオナガガモ。カンムリカイツブリは白い胸を見せて、遠くからでもすぐにそれと分かる。順光で見るヨシガモ、マガモは綺麗だ。ついで、愛くるしいミコアイサ。ホシハジロ、キンクロハジロは久しぶりだ。ヒドリガモは群れて陸に上がり、草を採餌中。冬の使者、亜種ダイサギはすっかり馴染になった。他にカルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、オオバン、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アメリカヒドリとヒドリガモの交雑種など(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区南辻 ◇1月2日、遊水池と元荒川でアオサギ1、カワセミ4、コガモ68、カルガモ10+、カイツブリ3、オオバン1、ダイサギ2、イソシギ1、オカヨシガモ2など。1月7日、元荒川でオカヨシガモ3、イカルチドリ2など。1月10日夕刻、ハシブトガラス、ハシボソガラスが久伊豆神社の柱に罅入り。罅入りの前に遊水池で水浴びするもの多数。その中にミヤマガラスも混じる(鈴木紀雄)。

鴻巣市糠田(54390379) ◇1月3日、荒川河川敷を数羽のヒメアマツバメが飛ぶ(榎本秀和・みち子)。

さいたま市緑区上野田 ◇1月4日、小さな水路にタシギ1、ケリ1(鈴木紀雄)。

上尾市 丸山公園 ◇1月4日、スズメ、ムクドリ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、カルガモ、マガモ、カ

ワセミ、カワウ、ウグイス、シジュウカラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、ツグミ、キジ、カケス、コジュケイ、コサギ、エナガ、アオジ、ルリビタキ、トラツグミ、アカハラ、ダイサギ、アオサギ、オオタカ、キジバト、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ガビチョウ。1月19日、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、スズメ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、カワラヒワ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワウ5、アオジ、カワセミ、カルガモ、アトリ3、マガモ、ウグイス、カケス、ホオジロ、モズ、エナガ、キセキレイ、キジバト、タシギ、ガビチョウ（村越百合子）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇1月7日、ジョウビタキ♂1、久々に見る。突然、眼前にルリビタキ♀出現。1月16日、オナガ5、オオタカ飛翔。シロハラが藪でココソ。カケス1、静かに出現。ペニマシコ♂1♀1（鈴木紀雄）。

上尾市戸崎公園周辺～さいたま市北区三貫清水 ◇1月9日、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ、シジュウカラ、カケス、ウグイス、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、バン、カルガモ、ホオジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、コサギ（村越百合子）。

春日部市谷原新田 ◇1月13日午前10時58分、ウイングハットの北東上空。普段、目にするよりも高いところにミヤマガラスが蟻集。ざあーと見たところ200羽前後。まるでガスタンクに似た大きな球体上の鳥柱をなして左旋回(下から観て反時計回り)しつつ南東へ移動し、視界から消えた（石川敏男）。

さいたま市見沼区膝子 ◇1月13日、草原でホオアカ3+、カシラダカ3。1月21日、ミヤマガラス50、ムクドリ50、スズメ500の大群の乱舞。草地にカシラダカ30。2月3日、ミヤマガラス70とハシボソガラス70の混群。2月16日、草地にカシラダカ30、オオジュリン、ホオアカ4。ミヤマガラス50。ヒバリとホオジロが囀っていた。コチ

ョウゲンボウ♂若鳥1が飛んできて、高木にとまる（鈴木紀雄）。

熊谷市の荒川 ◇1月14日午前8時30分頃、久下橋の西側にコハクチョウ5。翌日はいなかった（大畑祐二）。

春日部市増田新田 ◇1月14日午前10時5分、南東から自宅西側上空に飛来したミヤマガラスの一群を目撃した。その数、約35羽。続いて本群が現れる。高度は前日と同じ。先発の群は反転後、本群と合流して大きな球体上の鳥柱となる。北西の強風にあおられながら左旋回しつつ西方へ移動後、急降下を始めて見えなくなったのは10時11分。降下地点は春日部市とさいたま市の境辺り、スーパーバリュー(旧アピタ)周辺と見て12、3分後に駆け付けたが、群れの姿は見当たらず（石川敏男）。

鴻巣市大芦 ◇1月15日午後12時30分頃、荒川にかかる大芦橋上空でツバメ2。越冬しているのか？（藤原寛治）。

熊谷市相上 和田吉野川 ◇1月16日、ケアシノスリ成鳥1(下写真)。早朝、イスカ♂1♀2、ケアシノスリを観察中に上空を飛んだ（鈴木 功）。



熊谷市 桜リバーサイドパーク付近(54391313)

◇1月19日、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、オオバン、トビ、ノスリ、ケアシノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジなど（嶋田富夫）。

さいたま市岩槻区横根 ◇1月21日、電柱にノスリ1。1月28日、コチョウゲンボウ♂若鳥1、電線にとまっていた。2月3日、コチョウゲンボウ♂若鳥がハシボソガラスにちょっかいを出されて、少々移動するも、電線上で小鳥を食べていた。2月4日、1本の電柱にノスリ2が寄り添っていた。2月18日、ハヤブサ1がハト?を掴み、重そうに飛翔。ハシボソガラスのモビングを振り払い、高压送電鉄塔の天辺で採餌。2月25日、タヒバリ約30の群れ（鈴木紀雄）。

伊奈町小室 埼玉県立がんセンター～上尾市鷹の台高校周辺 ◇1月22日、スズメ、メジロ、ハクセキレイ、オナガ、シジュウカラ、カワラヒワ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、セグロセキレイ、アオジ、ウグイス、カワセミ、ムクドリ64、カルガモ28。ヨシが一部刈られずに残っている場所にバン、オオバン、マガモ、コガモ、ダイサギ、ホオジロ。ヨシの外側にクイナ3、キジバト、ヒバリ、イソシギ10（村越百合子）。

さいたま市南区 笹目川 ◇1月26日午前11時～12時30分、瓶尻橋～内谷橋でコガモ♂1♀3、カルガモ5、オオバン2、コサギ9、ダイサギ3、アオサギ2、ゴイサギ成鳥1、幼鳥1、カワセミ、ジョウビタキ♂、ハクセキレイ、キセキレイ、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス。冬日和の好天気。笹目川の狭い範囲のバードウォッチング。短い時間だったが、色とりどりの多数の野鳥に出会え、ラッキーだった（陶山和良）。

松伏町大川戸 まつぶし緑の丘公園 ◇2月3日、ミコアイサ♂3♀1などを見た後、大落古利根川に行く。常連のイカルチドリは1羽だけだったが、クサシギ1がいた。クサシギは、私は当地では初めての観察（高田範之）。

さいたま市岩槻区大口/春日部市増田新田
◇2月3日午後3時過ぎ、両地区の境目にある電線にミヤマガラスが大口地区に向かって（西向きに）並びとまっている。その数、約120羽。大口側の農地には約40羽の一群がいる。電線と農耕地を行き来しており、両

群併せて約160～170羽だろうか。その後、電線群の一部が増田新田側（東方）に降下しだした。急いで同地区へ移動。午後3時38分頃、観察中に北東からミヤマガラスの大群が迫ってきた。約215羽。接近途上で約100羽が分派して安之堀川上空を南東方向へ飛去した。約115羽の群れはそのまま大口地区上空に至り、向きを南へ変えて飛去した。午後3時47分、両地区境目の電線に並列のミヤマガラスをカウントしたら、約190羽となっていた（石川敏男）。

春日部市緑町 ◇2月4日夕方、住宅地の某運輸倉庫会社の敷地内でチョン、チョンと1羽の黒っぽい鳥が出てきた。よく見ると、イソヒヨドリだった。胸から腹部はくすんだ褐色、背面に青みがあり、羽の先が白いので♀の若鳥か第1回冬羽のようだが、♂の若鳥の可能性もある（石川敏男）。

狭山市 下奥富河川敷公園 (53396353) ◇2月5日、キジバト、コゲラ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シメ、コイカル（下写真）、イカル（嶋田富夫）。



さいたま市岩槻区高曽根 ◇2月6日、耕起中のトラクターの周りで採餌するツグミ、ハクセキレイ、モズに混じりケリ（鈴木紀雄）。

表紙の写真

シギ科クサシギ属アオアシシギ

2018年10月9日朝8:30頃、秋日和の川越市伊佐沼に着水したが、釣り人が来て、10分ほどで飛んでしまった。 **田口勝利(さいたま市)**



11～12月に開催される探鳥会のご案内です。
11/26の渡良瀬探鳥会以外は予約制です。

【事前予約制探鳥会の開催要項】

1. 特記の探鳥会以外は予約制で、日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. 予約申込は、当会のホームページからとする（原則として開催日の4週間前からホームページで受け付けを開始します。予約なしでの参加はご遠慮ください）。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. 必須条件：マスクなどの飛沫防止策（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から新型コロナウイルス感染者が出た場合は、参加者名簿を保健所などに提出することがある。
7. 新型コロナウイルスの感染拡大が続いている場合は、探鳥会を中止することがある（最新情報をホームページで確認してから参加してください）。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月5日（土） 要予約
集合：午前7時50分 丸山公園南口入口付近。
交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場から尾32西上尾第二団地經由リハビリセンター行7:26発で「丸山公園入口」下車、徒歩約4分。
解散：11時頃、集合地付近で。
募集人数：20名
担当：近藤、秋葉、浅見（健）、瀬尾、千葉、村越、吉原（早）
見どころ：早朝の公園で、冬鳥の到来を静かにじっくり観察しましょう。
注意：帰りは下車したバス停から11:50発。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月10日（木） 要予約
集合：午前9時、羽生水郷公園水族館前休憩舎。
交通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）を利用、東武伊勢崎線羽生駅東口8:04発→南羽生駅8:21発→「キヤッセ羽生・水郷公園」下車、県道を渡り公園へ。
解散：正午ころに集合地で。
募集人数：20名
担当：相原（修）、相原（友）、新井、中川、長嶋、茂木
共催：羽生水郷公園管理事務所
見どころ：ここの名物ヨシガモのエク립スや繁殖羽の個体が観察できるかな、ヨシ原のオオジュリン等の冬鳥にも期待、上空の猛禽も忘れてはいけませんね。
注意：帰りのバスは14:50発です。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月12日（土） 要予約
集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。
交通：春バス（コミュニティバス）が便利です。
①東武野田線豊春駅西口発 8:06→内牧公園着 8:21、②東武伊勢崎線北春日部駅西口発 8:38→内牧公園着 8:50
解散：正午ころ、集合地で。
募集人数：20名
担当：石川（敏）、青山（美）、佐藤（宏）、佐野、長野、橋口
見どころ：雑木林、蓮池、田んぼ、屋敷林を巡り、小鳥を探鳥。冬鳥との再会が楽しみ。

さいたま市・大宮第二公園探鳥会

期日：11月14日（月） 要予約
集合：午前9時、大宮第二公園ギャラリー棟管理事務所前。

交通：東武野田線 大宮公園駅から徒歩約 20 分。大宮第二公園駐車場が利用可能。

解散：正午ころに集合地で。

募集人数：会員 20 名、公園募集一般 10 名

共催：大宮第二公園管理事務所

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、小林、近藤、千葉

見どころ：カモは来ているかな。大宮第二公園～芝川～大宮第三公園と巡ります。

川越市・伊佐沼探鳥会+キタミソウ観察会

期日：11月16日(水) 要予約

集合：午前10時、伊佐沼公園駐車場

交通：本川越駅(9:25)または川越駅東口(9:30)から西武バス[本52]川越グリーンパーク行きに乘車、「伊佐沼冒険の森」下車、徒歩約10分。

解散：正午ころに現地で。

募集人数：15名

担当：小林(み)、今村、藤田

見どころ：晩秋の伊佐沼へ、カモの群れやシギ・チドリ、可憐な花を咲かせるキタミソウ(絶滅危惧種)に会いに行きましょう。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月19日(土) 要予約

集合：午前9時、公園管理事務所付近ベンチ。

交通：JR 大宮駅東口⑦番バス乗り場 8:23 発「さいたま東営業所」行きで「締切橋」下車。バス停からご案内します。

解散：正午ころに集合地で。

募集人数：20名

担当：大井、浅見(健)、浅見(徹)、市原、小林(み)

見どころ：池ではカモ類が間近で観察できます。昨年は、オカヨシガモ、ヒドリガモなど7種類。できれば、ロシアのバイカル湖方面から渡って来る彼とも再会したい。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月20日(日) 要予約

集合：午前8時35分、東武東上線 武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

※博物館駐車場は博物館利用者専用です

ので、駐車する場合は蝶の里公園駐車場にしてください。

交通：東武東上線 川越 7:58 発、または寄居 8:05 発に乘車。

解散：正午ころ都幾川桜堤公衆トイレ付近で。

募集人数：20名

担当：千島、新井、今村、中村(豊)、持丸

見どころ：雑木林を歩きシメ、ツグミ、アオジ、ジョウビタキ、カシラダカ。河原でイカルチドリ、セキレイ3種、ノスリが飛ぶでしょう。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月20日(日) 要予約

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館。

解散：正午前に集合地で。

交通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21 発で終点下車。

募集人数：20名

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、小林(み)、畠山

見どころ：芝川、見沼たんぼと斜面林で、水辺の鳥や里の鳥を探します。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日(水・祝) 要予約

集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口のスーパーサミット前の円形広場。

解散：正午ころ、村山快哉堂付近で。

募集人数：10名

担当：鈴木(秀)、持丸、山口

見どころ：カモの渡り、イカルチドリの群れ、新装なった親水公園等々、猛禽も期待。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月26日(土) 予約不要・一般可

集合：午前8時45分、中央エントランス駐車場。

交通：東武線館林行き 新越谷 7:23 春日部 7:38 東武動物公園駅 7:43 で南栗橋行きに乗り換え 南栗橋 7:54 着で東武宇都宮行きに乗り換え 柳生 8:10 着。または JR 宇都宮線下り大宮 7:27 栗橋 7:55 着 東武日光線に乗り換え 柳生 8:10 着。

解散：正午ころ、集合地で。
担当：佐野、浅見(徹)、大井、小林(み)、近藤、佐藤(宏)、長野、中橋、野口
見どころ：そろそろ冬鳥が出そろっているころ。谷中湖の往復コースでカモや猛禽、小鳥たちを探します。
ご注意：柳生駅からの案内はありません。遊水地への標識に従ってお越してください。
その他：今回は試験的に予約無しとします。
お気軽に参加ください。ただしコロナ対策は万全に。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月27日(日) 要予約
集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越 8:40 発、または所沢 8:38 発に乗車。
解散：正午ころ、稻荷山公園で。
募集人数：20名
担当：長谷部、石光、佐藤(久)、山口、山本(真)
見どころ：冬の入間川でオオバンがみられるようになって10年ほどたちます。今ではカモよりもたくさん越冬します。観察種の変化は定例探鳥会の面白さの一つです。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：12月4日(日) 要予約
集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。
交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。
解散：正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。
募集人数：30名
担当：須崎、伊藤、手塚、藤田、野口
見どころ：芝川第一調節池のベストシーズン到来。調節池なので環境は毎年変化しますが、カモ類・猛禽類を期待して観察をします。予想外の鳥にも会えるかもしれません。
ご注意：コースの途中にトイレはありません。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月4日(日) 要予約
集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。
解散：正午前に集合地で。
交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学

メディカルセンター行き」バス 8:38 発で「自然観察公園前」下車。
募集人数：20名
担当：吉原(俊)、相原(修)、秋葉、浅見(徹)、大畑、近藤、千葉、吉原(早)
見どころ：湿地、雑木林、池など公園内の様々な環境にいる鳥を探します。上空の猛禽も。

さいたま市・秋葉の森総合公園探鳥会

期日：12月10日(土) 要予約
集合：午前9時30分、公園内管理棟付近。
交通：西大宮駅バス乗り場から「西大02」わくわくランド行き 9:02 発で「秋葉入口」下車、または、大宮駅西口⑧番バス乗り場から「大62」リハビリセンター行き 8:53 発で「秋葉入口」下車、徒歩約15分。
解散：11時30分、集合地で。
募集人数：20名
担当：近藤、今村、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、瀬尾、千葉、村越
見どころ：二度目の開催。一昨年2月はルリビタキ・キクイタダキなど33種。自然保護ゾーンを中心にゆっくり“気長に”冬鳥たちを観察しましょう。
帰りのバス：下車したバス停から 12:14 発(西大宮駅)、12:18 発(大宮駅)。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月11日(日) 要予約
集合：午前9時30分、西武狭山線 西武球場前駅前。
解散：正午ころ、狭山湖堤防にて。
募集人数：20名
担当：石光、小林(ま)、佐藤(久)、持丸
見どころ：コロナ禍でも冬鳥たちは元気に渡って来てくれます。定番のカムリカイツブリの他、どんなカモ類に会えるでしょうか？ 林の小鳥たちにも期待して…。

栃木県真岡市・井頭公園探鳥会

期日：12月11日(日) 要予約
集合：午前8時30分、東武野田線 岩槻駅東口。
解散：午後5時30分、岩槻駅東口の予定。
交通：往復貸切バス(中型)を利用。
費用：5,500円(バス代等)。※過不足の場合

は当日清算。

定員：24名。最少催行人数17名。

申し込み：当会HPで11月1日から受付開始。

担当：入山、近藤、佐野

見どころ：初心者の方、大歓迎です。園内の池では、近くでカモ類を観察できます。雑木林では、ルリビタキやトラツグミに期待しています。

その他：昼食持参。後日、案内を発送します。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月15日（木） 要予約

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。

交通：東武伊勢崎線 春日部8:11→久喜8:30→花崎8:37。または JR 宇都宮線 大宮8:05→久喜8:24で東武伊勢崎線乗り換え。

解散：正午ころ、現地で。

募集人数：15名

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川(敏)、千葉、藤田、茂木

見どころ：青毛掘川～公園内を歩き、水辺の鳥や林の鳥など、身近な小鳥たちを楽しめます。空に鷹が舞ったらラッキーです。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月18日（日） 要予約

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館。

解散：正午前に集合地で。

交通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。

募集人数：20名

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、畠山

見どころ：“師走の忙しさ”をしぼし忘れて、のんびりバードウォッチングをしませんか。冬鳥が揃います。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月18日（日） 要予約

集合：午前9時40分、公園南入口内噴水広場

付近（各自で入園してください）。

解散：正午ころ、集合地で。

交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス 9:00 発で「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り少し戻る。

費用：参加費と入園料大人450円、中学生以下無料、65歳以上210円(要年齢確認)。

募集人数：20名

担当：鈴木(秀)、千島、中村(豊)、藤澤

見どころ：沼の水鳥や木立・藪の小鳥を探して散策します。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月24日（土） 要予約

集合：午前9時10分、岩槻文化公園の国道16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線 岩槻駅東口から朝日バス 8:43 発しらこぼと水上公園行で「村国入口」下車。バス停からご案内です。

解散：正午ころ、集合地で。

募集人数：20名

担当：長野、青山(美)、石井(健)、石川(敏)、市原、内田、鈴木(紀)、鈴木(庸)、長嶋、藤原
見どころ：トイレが完備された公園内や平坦な元荒川沿いの道を歩いて冬鳥を探します。年末の喧騒を離れてほっと一息つけることでしょう。

注意：岩槻駅での案内人の出迎えはありません。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12月25日（日） 要予約

集合：午前9時20分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線 東武動物公園駅東口から境車庫行き8:40発のバスで「上宇和田」下車。北方向に徒歩5分。

解散：正午ころ集合地で。

募集人数：20名

担当：佐野、浅見(徹)、小林(み)、佐藤(宏)、野口

見どころ：2022年最後の探鳥会。公園周辺で身近な冬鳥を探します。昨年はメジロがよく見られました。チョウゲンボウやノスリに出会えるかも。



行事報告

1月15日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：20(会員20)名 天気：晴

ヒシクイ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ ヘラサギ タゲリ ケリ イカルチドリ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ベニマシコ シメ ホオジロ (46種) (番外：コウノトリ) 谷中湖は例年になく水が少なく、いつもの1月と違った珍しい鳥が多く見られた。ヒシクイ、ヘラサギ、そしてなんと言ってもコウノトリ(数羽)は良かった。この鳥も遊水地の景色に馴染んできた感じだ。ミコアイサ、カワアイサ、タゲリも多く見所満載。一方、渡良瀬名物の強風の影響もあったか冬鳥は少なく、常連のオオジュリンはついに見られず。それでも、なんとかお目当てのベニマシコは記録できた。(佐野和宏)

1月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：20(会員20)名 天気：晴

キジ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ バン オオバン カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (30種) (番外：ドバト) オミクロン株の感染拡大中であったが、後援して下さる浦和博物館とも相談して、感染防止に努めた上での開催を決断。ただし、参加or不参加は申込者各位の判断に委ねた。結果、参加申し込みをされた方はほぼ全員が集合。2班に分かれての探鳥は、穏やかな晴天にも恵ま

れ、無事に終了。この探鳥会で初記録のイソヒヨドリ(♂)が現れ、盛り上がった。(浅見 徹)

新型コロナウイルスの感染拡大により、計画されていた以下の探鳥会は中止された。

- 1月20日(木) 羽生市 羽生水郷公園
- 1月23日(日) 狭山市 入間川
- 1月29日(土) さいたま市 大宮市民の森
- 1月30日(日) 所沢市 狭山湖
- 2月6日(日) 北本市 石戸宿
- 2月6日(日) さいたま市 民家園周辺
- 2月10日(木) 加須市 加須はなさき公園
- 2月13日(日) さいたま市 秋葉の森総合公園
- 2月17日(木) 東京都 浮間公園
- 2月19日(土) 上尾市 丸山公園
- 2月20日(日) さいたま市 三室地区
- 2月26日(土) さいたま市 岩槻文化公園
- 2月27日(日) 狭山市 智光山公園
- 3月5日(土) 千葉県 銚子漁港
- 3月5日(土) 寄居町 玉淀河原
- 3月5日(土) さいたま市 見沼自然公園
- 3月17日(木) 羽生市 羽生水郷公園
- 3月20日(日) さいたま市 三室地区
- 3月21日(月祝) 松伏町 松伏記念公園

3月26日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：25(会員25)名 天気：曇

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ヘラサギ タゲリ コチドリ タシギ エリマキシギ セグロカモメ トビ チュウヒ ノスリ コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ ニュウナイスズメ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (49種) (番外：ドバト、コウノトリ、ガビチョウ) 谷中湖ではもうおなじみとなったコウノトリがヘラサギと採餌中。エリマキシギもいたようだ。中の島を過ぎるとオオジュリンやカシラダカが多くなり、ベニマシコやアトリなども見られた。東谷中橋ではいつもの監視塔にハヤブサ。ここから先は景色が一転。ヨシ焼

きの終わった黒い草原が広がる。するとどこからか涼しげな声が。なんとアオジが低木の梢で囀ってくれた。
(佐野和宏)

3月27日(日) 狭山市 入間川

参加：21(会員21)名 天気：晴後曇

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ オオバン コチドリ セイタカシギ イソシギ カワセミ コゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (32種) (番外：ドバト) 河原に降りるとすぐにイワツバメの群れ飛ぶ姿、続いてコチドリ、タヒバリ、イソシギを見つけ、陸に上がり餌をついばむオオバンの足の指を観察。ここでは初記録となるセイタカシギも皆で見る事ができた。最後はカタクリ。今年は花が多く、しかも桜と一緒にの花見となった。
(長谷部謙二)

4月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：29(会員29)名 天気：曇時々小雨後雨

コジュケイ マガモ コガモ キジバト アオサギ トビ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ヒレンジャク ムクドリ シロハラ シメ ホオジロ アオジ (23種) (番外：ガビチョウ) 曇り予報が受け付け中にポツリポツリ。カワセミ池で嘴が婚姻色のアオサギとカワセミ♂。19年10月倒木のエドヒガンザクラを見学。一昨年、昨年と新芽に花が咲いたが、昨夏に葉が枯れ今年は芽出ず。台地で飛ぶ5～6羽のシメの群れ。後を追う3～4羽が影の木に降りる。裸木の天辺に2羽の姿。上はヒレンジャク、下はシメ。桜堤は満開のサクラ。降ったり止んだり雨が遂に降り出す。最後はセンター脇の路上で採餌中のアオジ。途中コジュケイの大きな声があちらこちらから聞こえた。
(吉原俊雄)

4月9日(土) 東京都 裏高尾植物観覧会

参加：19(会員19)名 天気：晴

[見られた花] タカオスミレ、ナガバノスミレサイシン、アオイスミレなどスミレ科11種、アズマイチゲ、トウゴクサバノオなどキンポウゲ科5種、

コチャルメルソウ、ヨゴレネコノメなどユキノシタ科4種、他にカントウミヤマカタバミ、ヤマハリソウ、ハシリドコロ、レンブクソウ、キバナノアマナなど(50種以上) 高尾駅から日影沢キャンプ場まで、花を楽しんだ。植物に詳しい2名のリーダーが花の名前だけでなく、その特徴や名前の由来、ヒトとの関わり合いなど教えてくれる。知識を得ることも野外観察の楽しみの一つと再認識。[参加者の声] 花、草を見るのもいいものですね。もっと勉強しないとわかりませんが、何回も回数を重ねることだと思いました。楽しい企画をお願いします。
(小林みどり)

4月16日(土) 春日部市 内牧公園

参加：21(会員21)名 天気：曇後晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン コチドリ トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ カワラヒワ シメ アオジ (31種) (番外：ドバト) 雨上がりの新緑に期待したムシクイやヒタキ類は出ず。少し時期が早かったかもしれない。代わりに小池でバン2羽が出たのは久しぶり。キジはケーンケーンと春を謳歌し、ダイサギは奇麗な飾り羽を披露してくれた。探鳥結果は当地としては多い30種の大台に乗る。参加者の皆さんの観察眼に感謝!!
(石川敏男)

4月17日(日) さいたま市 三室地区 Beginner

参加：17(会員17)名 天気：晴

キジ カルガモ コガモ キジバト オオバン コチドリ タシギ オオタカ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (22種) (番外：ドバト) 「鳥とはどんな生き物か?」という説明から始めた。探鳥会中は見沼田んぼの生物の多様性やその重要性、抱えている問題などについて、Sリーダーが解説。芝川ではタシギが登場。多くの人がじっくり見られた。畑の水たまりにはコチドリが2羽。空にオオタカ。この探鳥会をきっかけに、ますます鳥好きになってくれる人がいたら幸いである。
(小林みどり)



個人特別会員 80人
 家族会員 322人

●会報の送り方を一部変更

この号から、『しらこぼと』のみをお送りする会員への送り方が、三種郵便から宅急便のDM便に、変更になりました。事前にご連絡のない突然の変更で、驚かれたと思います。申し訳ありません。

郵便局から7月31日を提出期限とする第三種郵便物の定期調査通知が届き、その中で「定期刊行物の発行部数の内80%以上を有料で販売していること」を示す資料を提出することが求められています。今回ネット印刷に変更したことにより、その条件を満たすことができなくなりました。

ネット印刷の受注部数は500部単位であるため、当会の場合は最低1,500部発注が必要です。ところが下記の通り家族会員を除く会員数(1,149人)はその76.6%にとどまります。(家族会員に『しらこぼと』は送られていないので、「有料販売数」の対象にはなりません。)

そのことは事前に承知されていたのですが、ネット印刷へ切り替える利点は大きく、従来三種郵便で送っていた分については、宅急便のDM便に切り替えることで対応することにしました。

事前に十分なご説明ができなかったことを、深くお詫びします。

●会員数は

7月1日現在合計1,471人です。

総合会員	613人
地域型会員	442人
生涯会員	14人

活動報告

6月25日(土)午後6時からと、7月16日午後5時から、オンライン普及部会を開催。

6月27日(月)~29日(水)、メール交換による役員会を開催。**議案第1号**「7/10ヤング探鳥会の開催(案)について」、(普及部上程)、**議案第2号**「見沼・さぎ山交流ひろば運営協議会令和4年度サテライト企画の開催について」、(同交流ひろば運営協議会担当の浅見徹幹事上程)を承認した。

編集後記

ネット印刷に変更してから2度目の発行です。果たして今度の9-10月号はどうでしょう。

注文から入稿まで全てネット上での作業となり、従来のような印刷会社との阿吽の呼吸での編集・調整は望むべくもありません。最も気を遣う作業はカラー部分の色味調整です。今は、試行錯誤でpdf原稿を作成し、入稿しています。近い将来、この種の作業に精通した会員(原稿作成専用アプリInDesignなどを使いこなせる方)からの支援を希求するところです。編集部まで連絡ください。(T.A.)

今月号の特集の佐藤会員は昭和12年生まれ。この頃は、片道12kmの倉庫まで自転車でシギ・チ観察だそう。今度お会いした時はその元気の秘密をインタビュー。(山部)

しらこぼと 2022年9-10月合併号(第454号)定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
 住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル(公財)日本野鳥の会会員室へ
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。